

本時のねらい

・文章の構成を捉えて、はじめ、中、終わりの三つのまとまりに分けることができる。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

・説明文が示している文章を、段落ごとと、3つのまとまりごとに整理する手立てとして SKYMENU Cloud の発表ノートを活用する。発表ノート上では、3つのまとまりを段落ごとに容易に分類することができる。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

・発表ノート（SKYMENU Cloud）・大型 TV ・特別支援教育わくわく教材

本時で育む主な情報活用能力

C-STEP 2, D-STEP 2

該当番号の詳細内容は
「大阪府情報活用能力
ステップシート」から確認できます。



本時の展開

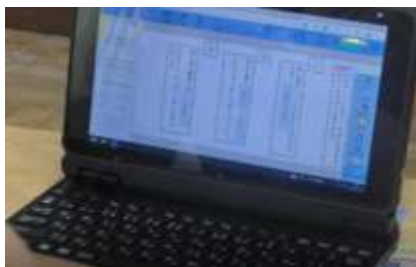
学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (10分)	○聞き取り問題を行う。 ○フラッシュカードで漢字の読みを確認する。【写真 1】 ○めあてを確認する。	・フラッシュカードのスライドを大型 TV に投影して、全員で共有することを通して、読みの理解を高めるとともに、授業に臨む意識を揃える。
展開 (32分)	○段落ごとの内容を確認する。【写真 2】 ○はじめ、中、終わりの構成の役割を確認する。 ○はじめ、中、終わりの三つのまとまりに分ける。 ○全体共有を行う。【写真 3】	・発表ノート上では、段落と書かれてある内容を視覚的に見やすい配列にすることで、学習への困り感をできるだけなくす。 ・分ける操作は端末で、分けた根拠を考える手立ては教科書でと、アナログとデジタルを使い分ける。 ・児童の考えを大型 TV に映し出し、共通点や相違点を見つける。
まとめ (3分)	○ふりかえりを行う。	

文章に書かれていることをたしかめ、三つのまとまりに分けることができる。

1 人 1 台端末を活用した活動の様子



【写真 1】大型 TV のスライドで漢字の読みの確認。良い学習のスタートが、学習に向かう姿勢をつくりだす。



【写真 2】段落ごとの内容は、穴埋めを介して理解しやすい手立てにする。



【写真 3】画面比較で共通点や相違点を見出す。

児童生徒の反応や変容

・端末に限らず黒板も併用することで、様々な課題をもつ児童にとって集中力を持続させたり、思考を整理する手立てとなった。また、他者の画面を大型 TV に投影し、共有や比較をすることで、全体での学習理解に繋がった。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

・児童それぞれに課題や目標が違う中で、同じレイアウトの発表ノートを使う授業展開を構築したことで、教員側にとって児童のつまずきが見取りやすかった。児童側においても、全体交流の際に、自分の考えと同じなのか、違うのかを比べやすく視覚的への配慮となった。